



平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京都府立舞鶴支援学校 】

1 実践テーマ	【 III V 】
2 実施対象者	小学部（7・8・9組の16名） 中学部（1～2年生の12名、2・5・6組の14名） 高等部（1～6組の28名、体育委員会に所属する8名）
3 展開の形式	（1）学校における活動 ① 教科名（ 保健体育 特別活動 総合的な学習の時間 ） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） （2）地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 （ねらい）	（1）競技を通して、ルールやマナーを守り、競技力を高める中で達成感を味わわせ、自己肯定感を高める。 （2）競技を通して人と関わる力を高め、互いに尊重し合い、協力・協同することの大切さを学ばせる。
5 取組内容	<p><小学部> 舞鶴市立朝来小学校で行われた居住地校交流の場にて他校の小学生10数名と一緒にボッチャを行った。 学期を通して週に1回、遊びの指導「ゲーム遊び」でボッチャに取り組んだ。取組の中で他学級との試合も数回行った。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p><中学部> 総合的な学習の時間の中で「地域の方とのレクリエーション交流」に取り組み、ボッチャを通して地域の方との交流する場を設定した。それに向けた事前学習や練習も5時間程行い、交流当日に向けての準備を進めていった。 京都府総合教育センター北部研修所にて行われた「手作り府民講座 親子おもしろ学び教室」に中学部生徒が参加した。講座では日頃から</p>

授業で取り組んでいるスポーツ「パラリンピックに挑戦 ボッチャ！」のコーナーの運営を担当した。当日に向けて、「ボッチャ」をわかりやすく伝える練習や、手本の練習を何度も行ったり、当日に参加できない生徒は練習用コートやゲームに必要な道具を作ったりする等の準備を進めていった。



<高等部>

京都府立西舞鶴高等学校との交流及び共同学習における活動のひとつとしてボッチャに取り組んだ。交流に向けて事前学習をしたり、本校独自のわかりやすいルールでの練習を繰り返し行ったりと準備を行った。

また、体育委員会が主体となって行うイベントである「全校レクリエーション大会」の種目のひとつにボッチャを設定した。全校児童生徒が楽しめる活動になるように、取り組み方を話し合ったり、実際にボッチャを楽しんだりすることができた。



6 主な成果

<小学部>

居住地交流で参加した小学生は全員ボッチャのことを知らなかったが、ボッチャを通して交流を行い、楽しく取り組むことができた。

また、授業での取組を通して、指導者や他学級児童、保護者や近隣小学校との試合を行った。様々な場面においてボッチャを通して交流ができた。

<中学部>

「地域の方とのレクリエーション交流」の取組において、当日は地域の方とコミュニケーションを取りながら試合をしたり、一緒に応援をしたりして交流することができた。また、事前の練習を通して自信をつけていたため、積極的に地域の方と関わることができた。

府民講座の会場には700人以上の方が訪れ、本校中学部生徒によるボッチャコーナーには100人を超える親子が集まり体験された。生徒たちは大勢の参加者に緊張しながらも、ボッチャのルールをわかりやすく説明したり、小学生にやさしく言葉がけをしながらゲームの進行をサポートしたりすることができた。この取組を通して、ボッチャのおもしろさを参加者の方に伝えることができた。

	<p><高等部></p> <p>授業の中で継続して取り組んだこともあり、交流会でのボッチャも積極的に活動することができた。本校生徒の感想として「楽しかった。」「また一緒にやりたい。」などの意見が出ていた。また、交流校の生徒の感想からも「ボッチャを通して楽しく交流ができた。」「それぞれで盛り上がりながら活動することができた。」など、よい意見が多数出ていた。</p> <p>体育委員会主催の全校レクリエーション大会に向けての活動では、どうすれば全校児童生徒を巻き込んで楽しい取組になるのかを生徒たちで話し合うことができた。また、自分たちでもボッチャを行うことでボッチャの楽しさがわかり、よりよい話し合いになった。</p>
7実践において工夫した点(事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> •ルールを支援学校の児童生徒が理解しやすいものに変更した。また、障害の実態や参加人数に合わせてルールの微調整を図りながら取り組んだ。 •自学級だけでなく、ボッチャを通じた交流をより幅広く行えるように留意して行った。
8主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> •ルールを生徒の実態に合わせて作っているため、公式ルールでの取組がむずかしい。 •この事業に対しての校内での組織が明確でないため、全校的な取組(情報収集や連携)としては不十分さがあった。
9来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> •引き続き、ボッチャを通して他校と交流をする。 •地域の方々とも積極的につながり、ボッチャを通して交流をする。 •事業に対しての校内組織を明確にして、学校として積極的に取り組みたい。